

外来種タンポポ 杉野孝雄



アカミタンポポ
撮影 掛川市(1999年)

平地の身近にあるタンポポには、在来種タンポポと外来種タンポポがあり、静岡県内では在来種にカントウタンポポとトウカイタンポポ、外来種にはセイヨウタンポポとアカミタンポポがあります。在来種と外来種は、外総苞片がまとまっているか、反りかえっているかで区別できます。セイヨウタンポポとアカミタンポポは、果実(瘦果)の色に差があり、前者はわら色、後者は暗赤色です。その他にもアカミタンポポは葉の切れ込みが深く、頭花や果実が小さいなどの違いがあります。

ところが最近になって、身近なタンポポに変異が生じ、雑種タンポポが存在していることが、1988年に発表された森田龍義氏の論文で明らかにされました。それまでは、日本に侵入している外来種タンポポは3倍体で、無融合生殖なので雑種はできないとされていました。ところが、2倍体の在来種タンポポとの間に雑種ができ、しかも、3倍体雑種、4倍体雑種、雄核単為生殖雑種の3種類の雑種の存在が発見されたのです。雑種タンポポはセイヨウタンポポに似ています。両者の区別や雑種タンポポの種類分けは、正確にはDNAや染色体でしますが、外総苞片の形や花粉の形状は目安になります。

雑種タンポポの広がりについては、2001年に行われた環境省の「身近な生き物調査」では、見かけのセイヨウタンポポとされた844個体の内84.5%が雑種タンポポで、特に関東地方と東海地方では、雑種タンポポの占める割合が多かったとの結果が発表されています。意外にも日本全国の広い範囲に分布していたのです。

静岡県では雑種タンポポは何時ごろから殖え始めたのでしょうか、筆者は1950年から帰化植物の調査を始めていますが、当時はアカミタンポポがほとんどで、セイヨウタンポポは市街地の周辺で見つかるぐらいでした。また、静岡県内にある東海道本線各駅の帰化植物の調査を10年ごとに行っていますが、その資料では、1970年代は、アカミタンポポが29駅で確認されていて、セイヨウタンポポは7駅でしか確認されていません。1990年代初頭の調査では、両種共ほぼ全駅に分布するようになり、その後、アカミタンポポの分布する駅の数が増え、2010年からの調査では、アカミタンポポが15駅、セイヨウタンポポが全駅40駅に分布していました。この調査は雑種タンポポとセイヨウタンポポを区別しての調査ではありませんが、雑種タンポポが市街地で分布を拡大してきたことを示唆しているようです。

写真の雑種タンポポは外総苞片が反りかえっていません。しかし、在来種タンポポではなく、花粉の形状などから、3倍体雑種タンポポと判断できる個体です。外総苞片の形だけでは、在来種と外来種を区別できなくなっています。外来生物法では、外来種タンポポは、在来種との間に遺伝的攪乱を起こす植物であること、繁殖力が強く、自然性の高い環境にも侵入することから、まとめて「外来タンポポ種群」として、要注外来生物に指定されています。



左:セイヨウタンポポ
右:アカミタンポポ



雑種タンポポ
撮影 静岡市内(2010年)